

# 参議院議員選挙 各県医師連盟の戦い

## 佐賀県医師連盟の取り組み

参議院議員選挙終了後、いくつかの医師連盟より得票率の高い県医師連盟の取り組みを紹介してほしいという意見をいただきました。今回から三回に分けて得票率の高かった県を紹介いたします。今回は佐賀県医師連盟からの寄稿です。佐賀県医師連盟はA1会員一人あたり六七〇票（全国二位、全国平均二・五二票）の票を獲得。

### 参議院議員選挙を振り返って

今回、日医連よりの日頃の政治活動、参議院議員選挙における活動について執筆依頼を受けましたが、後援会活動も選挙運動期間を通して、サポーター名簿の収集期限を前倒しして設定した以外は、他の都道府県医師連盟と同様であると考えています。ただ、一貫して行ったことと言えば、参議院議員選挙公示前の後援会活動期間中、会員向け機関誌（月一回発行）に、郡

市地区支部ごとのサポーター名簿獲得状況と自見はなこ日医連参与の経歴を写真真付きで紹介したことでした。

また、本県では、医療行政に造詣が深く、多くの医師の支持・支援を受けている福岡たかまる参議院議員（佐賀県選挙区）が同時に選挙を迎えられました。そこで、福岡議員の事務所と協力して支援活動を行っていただくことを前提に、県内郡市地区

### 後援会活動期間

#### ① 医政活動研究会の実施

本県では、各郡市地区支部より、二名ずつ若手会員を推薦いただき「医政活動研究会」を設置しました。日医連が自見参与を自民党に公認申請することを決定したのち、「私の考える医政活動」をテーマに研究会を開催。自見参与を講師として招聘。会員へ医政活動の重要性について、改めて意識づけするとともに、自見参与の決意・人柄をより多くの会員に知っていただく機会となりました。

#### ② 自見参与による

講演する自見はなこ参与  
支部へ各地後援会（選挙期間中は選対本部）の役割を果たす）を設置いただきました。改選を迎える参議院選挙区議員と併せて支援活動を行うことで、顔と名前を認識していただきやすい環境をつくり、相乗効果をほかりました。  
本県は、会員数も少なく、地方である



講演する自見はなこ参与



池田秀夫佐賀県医連委員長

### 医療機関等訪問

病院を中心に、計三回、約五十の医療機関等へ訪問していただきました。訪問に際しては、必ず県医師連盟または郡市地区支部役員が同行し、支援を呼びかけました。医療機関には、事前にある程度の人数を集めていただくよう依頼、徹底していただきました。また、今回より選挙権が十八歳に引き下げられたことから、若者の政治的関心を高めるために郡市区医師会立看護学校訪問も行いました。自見参与には、非常にタイトなスケジュールにもかかわらず、精力的に協力いただきました。

### 選挙活動期間

#### ① 街宣車による遊説

後援会活動期間に訪問できなかったエリアを中心に、街宣活動を実施しました。医療機関等訪問時と同様に、必ず県医師連盟または郡市地区支部役員が同乗し、支援を呼びかけました。また、医療機関等の通過にあたっては、事前に連絡し、効率的な遊説を行いました。

#### ② 有権者へ電話での投票依頼を実施

サポーター名簿をもとに、有権者へ電話での投票依頼を実施しました。期間は公示から投票前日まで実施しました。

#### ③ 有権者へ電話での投票依頼を実施

最後に、佐賀県医師連は、以前より日医連推薦候補をしっかりと応援する土壌があり、今回の選挙も先人たちがつくってこられた伝統を引き継いだものと自負しています。今回の選挙において、地道に、実直に訴えることの大切さ、平時よりの活動の重要性を再認識した次第です。

### ④ サポーター名簿の収集

本県では、集中的にサポーター名簿獲得を行うため、平成二十七年中に獲得目標を達成するよう期限を設定。九月より名簿の収集を開始。名簿の集計は、郡市地区支部ごとに毎月末に行い、その結果を佐賀県医連常任執行委員会（各郡市医師会長が常任執行委員として参画）で報告。達成率が低い郡市地区支部に対しては、より活発に支援活動を展開いただくよう要請しました。



演説会ポスター



医療機関の皆さんとハイタッチ



医療機関訪問



福岡たかまる議員とともに支援者と握手



訪問先で「頑張れ 自見はなこ」



ガンパロー!!



自見はなこ・福岡たかまる議員（右から3人目）と県医師連盟役員

# 第192回国会開会にあたって

9月26日より、第192回国会（臨時会）（会期66日、会期末11月30日）が開かれている。

日本医師連盟の代表として参議院に在籍する羽生田俊議員にとっては一期目後半戦最初の、自見はなこ議員にとっては文字どおり初の本格的国会。お二人に、この第192回国会に対する思いをご寄稿いただいた。

## 委員長として挑む国会

参議院厚生労働委員長  
参議院議員

羽生田 俊

皆さま方におかれましては、平素より医政活動にご理解を賜り感謝を申し上げます。

また、本年7月の参議院議員選挙におきまして日本医師連盟推薦候補の自見はなこ先生が210,562票を獲得され自民党比例候補者中9位（医療関係団体として1位）で当選させていただきました。日本医師連盟を出身母体とする参議院議員が2名になったのは実に9年ぶりのことで、全国のご支援を賜りました先生方に心より御礼と感謝を申し上げます。日本医師連盟を出身母体とする参議院議員が2名になったことにより国会においていっそうの推進力となれるよう自見はなこ先生と力を合わせ、また、今まで以上に多くの同志の議員と連携し仲間を集い、国民の目線を見た医療や介護、社会保障を構築し、また守り抜く決意であります。さて、9月26日の第192回臨時国会開会におきまして参議院厚生労働委員長を拝命いたしました。これもひとえに平素よりお支えをいただいている先生方のご支援と、やはり日本医師会という力強い支え、そしてその日本医師会での13年半に及ぶ活動の証と感じております。

当選以来、参議院厚生労働委員として厚労行政に注力して参りましたが、先の第190回国

会（常会）においては与党の筆頭理事として与党国対との連携、また野党の筆頭理事との交渉や調整など、政策だけでなく政局という駆け引きの場にも身を置き、法案修正や議事・採決などの重要な場面も多く経験させていただきました。この経験は、政策ありき国民のためという一点で国会が運営され議論されていると思っていた私にとっては衝撃でありました。まさに国会の場では、政策よりも政局が大きく法案審議に関わっており、野党との駆け引きや交渉、タイミングや粘り強さなど一歩間違えば政争の具になりかねない綱渡りのなかで、一つひとつ丁寧に、時には思い切って法案を成立させていかなければならないことを経験いたしました。

今回は、厚生労働委員長となり、下働きや調整という役割よりは、行司役と申しますか、与野党という枠組みを超えて、委員会を公平・公正、着実に運営することが使命となります。参議院の厚生労働委員会においては、委員長は質問の機会がないので、医師会案件や医療・介護についての国会質問は、同じ厚生労働委員会の所属となりました自見はなこ先生にお任せをすることとなります。まさに組織内候



羽生田俊参議院厚生労働委員長 委員長席にて

補として表裏一体となってしっかり努めて参る所存であります。

また、議員活動としては日医の答申よりお預かりしております「成育基本法」「医療基本法」に関しまして、法制化にむけた取り組みを加速して展開して参ります。受診時定額負担や医師偏在対策、控除対象外消費税問題、かかりつけ医の推進、医療と介護の同時改定など日本医師会と連携をし、あるべき姿への議論をして参ります。

「国民皆保険を守る！」ということを念頭に、規制改革や財政論だけに押されることなく、しっかりと「守るもの、変えていくべきもの」を見分け、患者さんが安心して医療を受けられ、医療者が安心して医療を提供できる体制「すべての人にやさしい医療を」を充実・発展させて参ります。

今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

## 医療の大切さを伝える架け橋として

参議院厚生労働委員  
参議院議員

自見 はなこ

先日、7月10日に開催された参議院議員通常選挙において自民党比例区第9位で初当選をさせていただきました。医師連盟の先生方、関係各位の皆さまのご支援のおかげで医療系候補者のなかで第1位の成績でした。横倉義武委員長のもと、羽生田俊先生と二人三脚で活動できることはなにより心強く、改めて深い感謝を感じておりますとともに、準備期間の1年半の間に訪問した先々にて先生方から教えていただいた都市部での医療の課題や、地方での人口減少の実情、医療・介護の現状や課題に対し、国政の場で立法府の一員かつ与党の一員としてお役に立てるよう精進していきたいという決意を新たにしております。

初登院させていただいた第191回臨時国会の開会式では、天皇陛下より新たに当選した我々議員に対して「国民の信託に応えるよう切に望みます」というお言葉を賜り、「信じて託す」という言葉の深さ、いただいた立場の重さを噛みしめました。

すべてが初めてのことばかりで緊張の続く毎日ですが、素晴らしい参議院自民党の同期にも恵まれています。当選年度にちなみ同期会は「二八会（にっばちかい）」と名付けられ、元職の方を除き16名で構成されています。幹事となりました私は主に連絡役など庶務を担当していますが、新人同士でまだ慣れない国会生活を助け合いながら過ごしています。

自民党においては、青年局、女性局、新聞局、組織本部のなかにある厚生関係団体委員会などに

所属しております。

45歳までの議員が所属する青年局では、小泉進次郎先生をはじめとする幹部の議員によりチームが構成され、次世代の社会保障を考える積極的な議論も行われております。そのなかで希少な医療職の議員として発言させていただく機会を頂戴しております。医療の役割や国民皆保険の大切さなど日常から患者様と接し、地域に根差して活動していれば当たり前と思われる“常識”がありますが、分野が違ふとその理解や立脚点はまったく違うものであります。医療費削減という名目の前に、ともすると我々からみて重要だと思われる分野をも削減しようという提案も出て参ります。たとえば、咳や腰痛や発熱などの初期症状は薬局でOTCで、というような案も示されるわけですが、軽微と思われる初期症状が重症な病態の初期症状ということもあるわけです。そこから重症化した場合に発生する医療費や機会損失のほうが大きい場合もあります。わかりやすい例え話などを織り交ぜて丁寧に自民党議員の先生方にもご説明をさせていただかなければいけないと思っています。同時に、我々から提案できることも多くあります。たとえば禁煙やフレイル予防など健康寿命を延ばすための有効な手立ても根気よく伝えていく必要を感じているところです。政策決定をする野党のなかで医療の大切さを伝える架け橋の存在になれば、と願ひながら新人として活動させていただいております。そのほか、死因究明プロジェクト



自見はなこ議員 参議院本会議場にて

チームの幹事、地方創生総合戦略本部の本部長補佐の役職など頂戴いたしました。医療・介護・福祉なくして地域社会は成り立たないということを地方創生の立場からも訴え、下働きさせていただき、この1年半の期間に私が見せていただいたものの、感じたものを与党議員として発言提言を行うことで、皆さまに少しでも還元していきたいと思ひます。

さて、9月26日から本格的審議である第192回臨時国会が開会いたしました。医療系第一位当選であったことが後押ししてくれて、競争率が最も高い厚生労働委員会に希望どおり所属することができました。専門医の仕組み、地域包括ケア、介護人材の不足、消費税の問題、医療現場における男女共同参画、成育基本法の制定など課題は山積しております。また医療が災害時に果たす役割はますます重要になってきております。数ある被災地への想いを込めて災害特別委員会にも所属しております。羽生田俊厚生労働委員長のもと、医師連盟の議員として有益な議論が展開できるように委員として頑張っていきたいと思ひます。